

# シヤンティ

shanti

2012  
冬  
1月号

特集

貧しさ、  
なんとかしよう。



# 道

巻頭言

みなさまと  
新たなスタート

会長 若林恭英

シャンティ国際ボランティア会 (SVA) はお陰さまで31年目を迎えました。昨年は、東日本大震災で世界中より支援の手がさしのべられ、今後どのように復興するのかが注目されています。自然災害

は、過去に幾度となく発生し、その度に先人は乗り越えてきました。ただ、原発事故は、今後の社会のあり方に重い課題を投げかけています。しかし、歳月はかかるでしょうが、必ずや克服してゆけると信じています。

東北各地の復興へ向けた取り組みは、その初めに、それぞれの地域に伝わる伝統文化(祭・芸能等)を行うことから始まっているのを見るにつけ、30余年前にカンボジア難民キャンプでSVAの先達がクメールの陶器作りや、太鼓作りなどの伝統文化継承を難民の人たちと共に取り組み、そこから希望を見出していったことと重なりま

す。SVAの歩んできた教育・文化支援という視点は、日本に今こそ必要だと改めて気づかされます。

この度の大災害は、現代社会のあり方に再考を促していると感じている人は多いのではないのでしょうか。こうした時だからこそ、安心して暮らせる社会を創造してゆくことが、犠牲になられた方々への追悼となるでしょう。そのためには、身近な社会のあり方に、なぜ、という問いを発することから始まるのだと思います。このなぜを繰り返してゆくと、世界につながってゆくことに気づかれると思います。

国連ミレニアム開発目標(MDGs)に、「極度の貧困と飢餓の撲滅、他」は国際社会の大きな課題とされています。そのために我々にできることは何か、なぜという問いを重ねることは、行動につながる原動力です。こうした皆さんの気持ちをつないでSVAは、国内外の困難な立場にある人々に寄り添ってゆきます。

新しい年にあたり、「共に学び、共に生きる」という理念を踏まえ、支えあえるシャンティ(平和)な社会構築を目指し、皆さまと共にこれからも歩んでいきたいとスタッフ一同決意を新たにしています。

**SVAの使命**

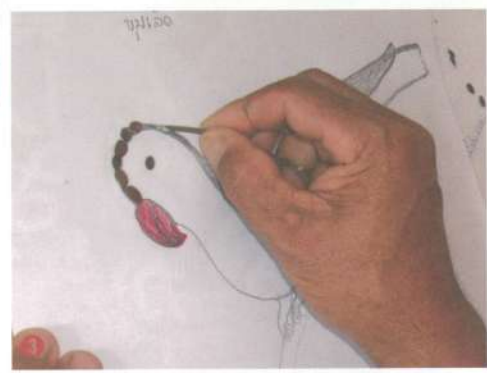
私たちは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。特にアジアにおける教育・文化活動を通じて、「共に生き、共に学ぶ」ことができるシャンティ(平和)な社会の実現をはかります。

**Cover Photo**

最も劣悪な生活環境におかれる子どもたち。カンボジアの首都プノンペン市のラッセイ地区にあるゴミ捨て場。ゴミが巨大な山となり、土壌は有害物質で汚染されているにもかかわらず、近くのスラムに住む子どもたちが遊び場にしています。



⑥ 研修会を終えた参加者たち。伊藤所長も加えて記念撮影。  
⑦ 雨季に水没した所は、糞分が蓄えられ、乾季には良質な畑となる。  
⑧ 教科書について各自の経験を共有。よりよい教え方を議論する。



① サラワン県ワビー郡では、雨季に川の水位が上昇し、道路が水没。車を載せる渡し船を待つ。  
② グループ毎で話し合った内容を発表。自分たちのグループからは出なかった視点、コメントを聞く。  
③ スイカの種など身近な素材を使い、子どもたちが楽しみながら学べる教材を作る。  
④ いま直面している教育問題を分析するために、ポストイットに各自の意見や経験を書き込む。  
⑤ ワビー郡教育事務所職員が、参加者の意見をまとめ問題を分析。具体的な行動計画書をつくる際に利用される。

(NGO)ユニファプログラム・オフィサー 仁井勇佑

イスタッフは、これまでの研修会を振り返り「教員や父母会に教育の重要性が理解されてきたように思う。新しい知識や技術を学んだことが、今後も情熱を持って教えること、地域を挙げて学校を支援することにつながって欲しい」と語る。

研修会の参加者たちが、今後どのように地域の教育問題に取り組んでいくか、しっかりと見守っていきたい。

研修会の初期から携わってきた外務省の日本NGO連携無償資金等を活用し、2006年11月からラオス南部サラワン県ワビー郡とラオングム郡の教員を対象に実施してきた研修会が、2011年8月に終了した。

総まとめの振り返り会議では、教員から「授業の教案を作るようになった」「子どもが楽しく学べる環境作りを意識している」など、これまでの研修内容が教育現場で活かされている様子がうかがえた。父母会からは「村の教育は、私たち自身の手で良くしていきたい」との声が聞かれ、研修会を通じて教育の重要性が地域住民に理解されていることを実感した。

## プロジェクトの風景

a Scene of Our Project

ラオス  
教員研修会が終わって

# 貧しさ、 なんとかかしよう。

## 公正な世界をめざすMDGs

2011年10月31日、世界の人口が70億人を超えました。しかし、1日1・25ドル(約100円)未満で暮らす人は14億人以上いるといわれています。この人たちはちゃんと働かないから生活が苦しいのでしょうか? やせた土地に住んでいるから貧しいのでしょうか。いいえ、違います。

食料や水、燃料などはすべて地球の資源です。それを世界中で分けあって使うしかないのですが、国連の調査では、2割の先進国が世界の富の8割を独占しているといわれています。不公平が貧困を生み出しているのです。

私たちは「宇宙船」に住んでいると考えればわかりやすいのではないのでしょうか。食料や水は乗組員の間だけあるのに、10人のうち2人が飢えているというのが、世界の現状です。

2000年、国連と各国政府などが「公正な社会づくり」を目指すことを宣言し、目標を定めました。それが「MDGs(国連ミレニアム開発目標)」です。

「共に生き、共に学ぶ」というSVAの姿勢には「わかち合い」の思想があります。SVAと一緒に問題解決に取り組んで欲しいという願いをこめて。

※国際協力NGOセンター調べ

ゴミ山では子どもも空き缶を拾いに加わっています。有害な煙が立ちこめて、健康被害が心配です。(写真・瀬戸正夫)



国連ミレニアム開発目標

# MDGsをきほんの「き」

難しい? とつつきにくい? 世界中の人たちが平和で健康に生きていけるようにという願いを形にしたのがMDGsです。

- 1 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 2 普遍的初等教育の達成
- 3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
- 4 乳幼児死亡率の削減
- 5 妊産婦の健康の改善
- 6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止
- 7 環境の持続可能性の確保
- 8 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

### 8つの目標

### 「MDGs」って?

21世紀に向けて、世界中で公正で持続的な平和をうち立てることを決意した「国連ミレニアム宣言」を、日本を含む189カ国が2000年に採択しました。この宣言の実現のために、国連で合意されたのがMDGsです。開発途上国の貧困問題の解決のために、2015年を期限とする8つの目標にまとめられています。



ロゴ作成:(特活)ほっとけない 世界のまずしさ

### 開発途上国の貧困は、日本には関係ない?

世界では、約5人に1人が深刻な貧困の中で暮らしています。飢餓に苦しむ人は世界の人口のおよそ6人に1人。背景には「世界の2割の豊かな人たちが、世界の富の8割を享受している」という不公正な社会の仕組みがあります。

世界の食料供給は中国やインドなどの人口大国が発展し、バイオ燃料の拡大などで、需要が増加している一方で、毎年500万ヘクタールの農地が砂漠化するなど供給が伸びず、食料価格が高騰するなど、厳しい状態になっていいます。日本は、10億人近い飢餓人口がいる世界から自分たちの食料の6割を輸入し、国産食料と合わせた全体の3割近くを捨てているのです。日本は豊かさにあずかっただけで、日本は豊かさにあずかっただけで、期待されています。

### 日本にはなにができる?

日本では、MDGsの存在自体が広く知られていないため、他の先進諸国に比べて目標達成の機運が低迷しており、日本政府も約束した拠出金の支払いを滞らせています。世界の貧困を半減させるという世界との約束を守るためには、国連、政府、NGOだけでなく、地球市民としての私たちひとりひとりの思いと行動がますます重要になっていきます。

「MDGs2015キャンペーン」サイトより



### SVAはどんな役割を果たしているの?

教育分野の「目標2」「目標3」の達成にむけて、学校建設や図書館活動などの初等教育への支援をしています。また、「MDGs2015キャンペーン」に参加NGOとして、他のNGOと連携しながら、日本政府へ政策提言をするなど働きかけています。企業や他のNGOとネットワークを組んで、情報交換や発信を行っています。(詳しくはP.9「ネットワーク」)

### 「目標2」の普遍的初等教育達成の見通しは?

学校に行っていない子どもは1億人から6700万人に減少していましたが、入学する子どもの増加率よりも人口増加率が勝っているため、2015年にはまた増加に転じてしまうだろうとユネスコは推測しています。

### EFAってなに?

MDGsに基づき、2015年までに世界中の全ての人たちが初等教育を受け、字が読めるようになる(識字)環境を整備しようとする取り組みが、「万人のための教育(EFA: Education for All)」です。今なお世界中に「読み・書き・そろばん(計算)」といった基礎教育を受けられない人が多いなかで、ユネスコが取りまとめとなって、ユニセフ、世界銀行等の他の国際機関や、日本を含む各国政府機関、NGO等が協力しながら、取り組んでいます。SVAも教育協力NGOネットワーク(JNNE)の事務局として協力しています。

# 数字で見るMDGs

国連ミレニアム開発目標

## SVAの活動地の現状とその問題



2015年までに、世界中すべての子どもが

男女の区別なく  
初等教育の全課程を  
修了できるようにする



■ 8つの目標のうち、教育分野の目標は2つあります。SVAでは、この目標を達成できるよう、「万人のための教育(EFA)」キャンペーンに参加し、取り組んでいます。私たちの活動地であるカンボジア、ラオス、アフガニスタンは、MDGsの指標に対してどのような状態なのか、達成度と課題を見てみましょう。

中学校の  
就学率  
カンボジア  
31.9%

小学校の  
就学率  
カンボジア  
95%

6年生までの進級率：61.6%

就学率は上がりましたが、6年生までの間に4割が退学してしまいます。特に地方では修了率が低く、それには、6年生まで供えた完全校が少ない(通学に時間がかかる)、家業・家事の手伝い、出稼ぎに行く親と共に引っ越して退学してしまう、教育の質が低いため、子どもが学校を楽しいと思えないなどの原因があります。

### 中等教育はこれからです

カンボジアの教育省も力を入れていますが、①小学校の6年生の卒業率が低いため、中学校への進学率も低い数字となっている。②予算不足。海外からの援助(国際機関、ODA、NGOをふくめて)が主に初等教育に向けられていたため。中学校・高校の学校数、先生数が不足している。③小学生に比して、中学生は経費がかかるので、保護者の負担が増えるなどの理由で伸びていません。(手束耕治)

### 95%からが難しい

小学校の就学率は94~95%とかなり改善しました。しかし、就学率達成は95%からの5%が難しいと言われています。通学に困難がある状況の児童が取り残されているからです。100%に至るまでが正念場になります。(三宅隆史)

### 小学校の 就学率

ラオス  
94%

(2010年調べ)

5年生までの進級率：68% (地方では50%以下)

1991年には58%だった就学率は94%まで上がっていますが、3割以上が小学校を修了できずにいます。理由は、両親の教育に対する理解の低さ、経済力の低さ、そして政府の教育予算不足などがあげられます。ユニセフ・ラオス事務所は、「設備の不備と教員不足」を主な問題点としています。

政府は1990年代初頭から、総合的教育改善事業への取り組みを始めており、学制の変更、カリキュラム改訂、小中学校教科書の刷新、女性・少数民族に対する教育サービスの強化、職業訓練学校の改善などに力を注いでいます。



**SVAの貢献**  
小学校に図書室を作りました。絵本を読むのを楽しみに、学校に来る子どもがふえました。



2015年までに、  
すべての教育レベルにおける  
男女格差を解消する



### 開発途上国の 成人における 平均識字率：

79%

カンボジア  
77.6%

(2008年調べ)

1974年、約2万人いた教師の75%、初等・中等教育を受けた生徒の67%、高等教育を受けた生徒の80%がポル・ポト時代に殺害されるか、強制労働で命を落とすか、国外に逃れてしまったといわれています。同時に、カンボジアから全ての教育システムが消滅しました。また、本が普及していないため、読み書きができて、本から知識を得られない、能力を活かせない状態です。



### 男女の 就学率

カンボジア  
95.5%  
95.5%

(2009年調べ)

小学校で「目標3」の達成に近づいています。これはEFAの基本方針を尊重し、カンボジアの教育省も女子の就学に力を入れており、支援者も理解しているからです。



**SVAの貢献**  
アフガニスタンでは、女子小学校に校舎を建設して、学校に通える女子が増えました。

アフガニスタン  
68%  
44%

(2009年調べ)

2001年のタリバン政権崩壊後、教育省がユニセフの支援で行った「学校へ戻ろう」キャンペーンで、就学者数は激増し、2000年時点の約90万人から09年には約630万人と7倍になりました。学校数は6,039校(2002年)から11,978校(2009年)に増加しましたが、使用できる校舎がある学校は50%にとどまり、多くの子どもがテントや野外での学習を強いられています。暑さ寒さ、雨によって授業に支障が出るだけでなく、姿を見ることが許されない年頃の高学年の女子児童は校舎のない学校に通えなくなり、就学を妨げます。

### 15歳以上の 識字率

アフガニスタン  
26%

(2009年調べ)

### 女性の識字率：12%

女性の識字率が非常に低い原因として、大きく2つあげられます。①タリバン政権時代にほとんどの女子は学校に行けなかったこと ②女性の教員が不足していたり、学校にトイレや塀がないために6年生になる前に退学してしまう女子が多いことです。



**SVAの貢献**  
物語に興味を持つことで、子どもたちは文字に親しみ、覚えるようになってきました。



「データブック 貧困」  
西川潤著 (岩波書店)

「世界の、アジアの、そして日本の、貧困の実態はどのようなものなのか。激変する世界状況の下で貧困はいかにしてつくられているのか? 日本に生きるわたしたちに向けて、世界の「貧困」事情をデータを示してわかりやすく解説しています。貧困は経済的社会的メカニズム・過程として捉えています



「世界がもし100人の村だったら」  
池田香代子 (マガジンハウス)

ドネラ・メドゥズのコラム「村の現状報告」を元にしてネット上で広まった物語を絵本にして出版したこの本は、世界の多様性と矛盾をわかりやすく伝えています。その後、「解説編」「たべもの編」「こども編」「完結編」、2008年に発行されて統計の数字を最新のものにした「総集編」まで、シリーズ6冊が発行されており、貧困・格差の問題を考えるきっかけに。



「世界の半分が飢えるのはなぜ?」  
ジャン・ジグレル著 (合同出版)

「ぼくたちはお腹いっぱい食べられるのに、世界にはなぜ飢える人がいるの?」紛争、南北の格差、倫理を逸脱した市場主義経済など、飢餓を生み出す社会構造を小学校高学年から大人まで誰でも理解できるようにわかりやすく説明しています。著者は飢餓問題の第一人者。

もっと知る  
考える  
オススメの本

# ネットワークとSVAが果たす役割

政治的・社会的な問題が絡みあっている貧困問題の解決のためには、NGO同士、さらに企業や政府との連携も必要です。連携のために作られたネットワークにSVAも加盟し、情報交換、調査、提言などの活動に加わっています。

## MDGs 官民連携ネットワーク

2010年9月のMDGs 国連首脳会合において、取り組みを加速させる必要があるとの認識を受けて2011年6月、外務省が立ち上げた官民連携ネットワークです。途上国の開発ニーズ、MDGs 達成に貢献する民間企業の取組、途上国の現場で開発支援を行う際に必要とされる情報の発信などを通じて、MDGs 達成に向け官民の連携を進め、民間企業や市民社会の活動を推進していくことを目指します。

## NGO 労働組合国際協働フォーラム

2004年9月、NGOと労働組合の連携を組織化して国際協力活動を行うために設立されました。NGOが貧困、人権、平和、環境など地球規模の問題に積極的に取り組む一方で、労働組合も労働運動の一環として国際的な社会貢献活動に力を注いできました。NGOと労働組合は共通の課題も多く抱えており、例えば児童労働やHIV/AIDS等の分野では、国際的にも重要な役割を果たすようになってきました。理解と協働事業を進めることにより、MDGs に掲げられた、貧困、人権、平和、環境などの諸課題の解決に寄与します。



## CSR 推進 NGO ネットワーク

持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題解決に向け、NGO・企業双方の特性を認識し、資源や能力などを持ち寄り、対等な立場で協力して活動する機会を促進することをめざして2008年4月に結成されました。SVAはメンバーの一員として、参加しています。東日本大震災で被災者の支援活動に参加し、初めてNGOと連携した企業が多くありました。この連携をMDGs 達成への活動にどう活かせるか、CSR担当者やNGOが連携して、企業の社員、経営層をどのようにMDGs 達成に巻き込んでいけるかが注目されています。

CSRとは、企業が果たす社会的責任のこと。日本の企業でも国際的な視点に立ったCSR活動として環境対策、児童労働・強制労働への取り組みなどへ広がっています。これからは特に「貧困と開発」への取り組みが期待されています。

## 教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)

教育協力に関わるNGOを中心としたネットワークです。SVAは事務局を担い、中心的な役割を果たしています。情報交換、調査研究、NGOの能力強化、日本政府や国際機関に対する政策提言、セミナーやシンポジウム開催などを通して、子どもや市民に教育協力への理解と参加を働きかけていく啓発・広報活動などを行っています。毎年4月には、EFA問題についてのキャンペーンを実施しています。詳しくは「世界の子どもに教育を」ウェブサイト <http://jnneng/2011> をご覧ください。

# 私たちに何ができるか

— 足ることを知り、援助を改善する



カンボジア・コンポントム州にて (写真: 瀬戸正夫)

貧困や飢えは、飢えた人を助けてあげないといけないという慈善の問題ではなく、分配の問題です。国連食糧農業機関は「地球は120億人を問題なく養える」と報告しています。原因は、あり余る富や食料が不平等に分配され、偏在していることにあります。

MDGs は南北間、先進国と途上国の不平等、格差を是正することを目標にしていますが、さらに、世代間の公正も考える必要があります。私たちが、有限な資源を使いきって枯渇させてしまうことは世代間の公正に反することです。たとえばクロマグロや鯨が今絶滅してしまったら、私たちの子孫は一度も食べられないことになります。そして絶滅した生物を復活させることは不可能です。

南北間の公正、世代間の公正を実現するために私たちはまず何をすべきでしょうか。

一つは効率的とされてきた大量生産・大量輸送・大量消費・大量廃棄のしくみを見直すことです。省エネルギー、省資源の生活様式や地元で露地栽培で作られた食べ物を消費することは、二酸化炭素の排出量を減らせますし、途上国の資源や食料を収奪しなくて済みます。仏教の教えである「足るこ

とを知る」は、MDGs 達成のために私たちに課せられたチャレンジでもあります。

2つめは、日本の途上国援助を改善しよう政府に働きかけることです。援助といってもMDGs 達成に役立たなければ意味がないので、基礎教育や基礎保健の援助額を増やす必要があります。学校に行っていない6700万人の子どもが学校に行けるようにするには、不足している190万人の教員の雇用が必要なのですが、現在日本政府は教員の雇用のための支援をしていません。

昨年9月の国連総会で、初等教育援助のための国際的な基金が改組され、教育のためのグローバル・パートナーシップ基金」という名前になりました。この基金は、政府自身が教育予算を増やすなど、教育分野のMDGs 達成のために努力している途上国45カ国が対象となっており、カンボジアやラオスも含まれています。2003年の設立以降、3万の教室の建設、33万人の教員の研修、2億冊の教科書の配布、70万人の児童への給食の供与が「教育のためのグローバル・パートナーシップ基金」によって支援され、大きな成果をあげてきました。

先進国が今後この基金にいくら

出すか表明するための会議が11月にコペンハーゲンで開かれました。2014年まで1年あたりイギリスは70億円、オーストラリアは55億円、デンマークは40億円、オランダは33億円、米国は17億円を拠出することを表明しました(1米ドル=80円で換算)。ところが日本政府のこの基金への拠出額はたったの4億円でした。財政難を抱え、人口わずか450万人のアイスランドでさえ、15億円を出すというのです。

日本の教育援助の問題の一つに「高等教育を重視し、初等教育を軽視している」ことがあげられます。日本の教育分野の援助総額は年間約560億円ですが、日本の大学への国費留学生への支援を含む高等教育分野が58%(324億円)を占め、初等教育分野は26%(145億円)しか配分されていません。限られた援助資金の使い道は、エリート人材の育成よりも学校に行けない子どもの方を優先するべきです。

小学校の教員の給与を支援するプログラムを始めた「教育のためのグローバル・パートナーシップ基金」への拠出を増やしたりするよう、政府に働きかけることは、多くの子どもが学校に行けるために大きく役立ちます。(三宅隆史)



洪水被害の調査にあたるサミースタッフと江口スタッフ  
村全体が水につかったところではボートしか移動手段がない状態



大人の背丈ほどに浸水した地域では人びとが家に取り残された



床上浸水で修繕が必要な学校は27校にのぼった

## カンボジア Cambodia 大規模水害の被災者 支援にのりだす

昨年10月、カンボジアでも史上最大規模の洪水が起こりました。被災者150万人、死者2500人を超え、カンボジア全水田の17%が冠水し、特に地方の農村地域に甚大な被害を与えています。

SV Aが支援した学校の校舎も100校以上が被害にあっており、水位が3mまで達した学校もありました。洪水により一面水浸しになった村はボートでしか近寄れず、援助から取り残



「食糧を援助してほしい」という切実な訴えが寄せられた

も史无前例の洪水が起きました。被災者150万人、死者2500人を超え、カンボジア全水田の17%が冠水し、特に地方の農村地域に甚大な被害を与えています。

この緊急援助にあたって感じたことは「貧しい人たちが、最も被害を受けている」ということです。洪水被害があった村は、どこも食糧源かつ収入源である水田がほとんど、もしくは全部が水に浸かってしまっており、収入もありません。米を借金して買わなければならぬという状況に陥っていました。そのため、食料を受けとった村人たちは、SV Aスタッフに何度もお礼を言いつつ村に帰っていき

■総務・国際担当  
江口秀樹

## タイ Thailand まさかの洪水に 立ち向かう

SV Aタイランドは、10月中旬から2週間浸水状態が続いていたバンコクの東部30kmワチャラポン地区600世帯に救援物資を届けました。

「この10日間、見捨てられたような気がしていた。こんなちっぽけな地区は自分たちで何とかするしかないって、みんなで耐えていた。あなたたちが来てくれて、本当にうれしい」迎えに出たチンさんは、区役所を始め、多くの機関・団体に支援を求めたことと、苦勞の跡が見え



外に出られないお年寄りに家まで物資を届けた

でも近い存在。救援物資を詰めるのに活躍したクロントイ図書館の子どもは、「あそこには親戚のおばちゃんがいる、たいへんな時は助けあわない」と言いながら、真剣に作業に励んでいました。ここにはシーカー・アジア財団縫製部のベテラン、ナンさんも住んでいます。物資配布には、仲間を助けようと縫製部5人も参加しました。いつものミシン台を離れ、物資を手に、水をかきわけ進む姿は凛々しいものでした。大規模な水害に、行政としては為すすべのない状況です。こういう時にこそ助けあう、心の強さを持つタイの人たちに寄り添い、支援を実施していきます。

■クラフト・縫製担当  
ナリサラ・ピルック

## ラオス Laos 研修会はらせん階段を上って行くようなもの

「研修会を実施するというのは、高い塔のてっぺんを目指して長く続けられせん階段を上って行くようなものだね」図書館事業課調整員のカムコンスタッフと話をしました。実施した研修会のモニタリングに行く道中でのことです。

「研修会の立案が最初の一段目で、研修会を実施して、その後に続くのがモニタリングの階段。研修会の進め方はどうだったのか、内容はニーズに合っていたのか、実施後どのようなインパクトがあったのか、モニタリングの階段を上り続ける。モニタリングでは思わず階段を数段あらずさつてしまおうような耳が痛くなるような話もあれば、また嬉しくなるような反応もある。それら全部受け入れな



モニタリングの様子

がら、次に上るのが今後の活動のためのフィードバックの階段」

2010年から2011年にかけてラオス事務所の学校教育支援事業課、図書館事業課ではそれぞれ現地の人材育成を目指した研修会を実施しました。研修会では実施しただけでは成果がなかった、目標を達成したことができません。

「モニタリングとフィードバックをぐるぐる上りながら高い塔のてっぺんにある事業の出口、つまり現地の自立発展を目指して上って行く」事前準備から含めて時間と労力そして予算をかけている研修会。達成感だけでは終わることができないのが研修会です。

■国際部  
鈴木淳子

## ミャンマー (ビルマ) 難民 Myanmar (Burma) Refugee Camps 東京と長崎で スタッフ報告会を開催



プロジェクトマネージャーのセイラー (左) 小野所長 (右)

10月5、6日、小野所長とセイラースタッフが「長期化するミャンマー(ビルマ)難民問題と揺れる人々の心」キャンプ内の図書館の存在」というテーマで、報告会を開催しました。難民キャンプの状況や現地での図書館事業について、それぞれ30人ほどが熱心に話を聞いてくださいました。

会場からは、ミャンマー情勢の変化に伴う難民キャンプの行方、図書館活動について質問がありました。第三国定住パイロットケース第2陣としてカレン族難民4家族18人が9月に来日したことを受けて、第三国定住に関連する質問が多く挙がりました。セイラースタッフも「改めて日本の第三国定住制度に多大な関心が寄せられていることを実

感じた」と話しています。来日した難民家族はこれから約半年間、日本語教育や社会生活適応指導などの定住支援プログラムを受けて、定住生活を始めます。パイロットケース第1陣の難民が、日本での生活で多くの困難に直面しているという報道がなされています。が、難民キャンプの中でも、それを心配する声も聞こえてきます。特に日本語でのコミュニケーションの難しさについて懸念があるようです。このような不安を払拭するためにも、定住先の地域社会やボランティアの協力も含めた定住支援、そして必要な情報を難民キャンプに提供することが求められています。

■NGOジュニア・プログラム  
オフィサー 菊池礼乃

## アフガニスタン Afghanistan 紙芝居が 「優秀賞」を受賞



再会したバゼンダとナワゼンダ

SV Aアフガニスタン事務所で作成した紙芝居「旅に出たハト」が、紙芝居文化推進協議会「第12回手づくり紙芝居コンクール」で、優秀賞を受賞しました。このコンクールでは、国内外から205点(ジュニアの部95点、一般の部110点)の応募があり、一般の部からは6点が優秀賞に選ばれました。

今回受賞した「旅に出たハト」は、アフガン事務所のハニフ・サフィスタフがおはなしを考え、会社員でSV Aが運営する図書館の絵画活動に参加していたサフィウッラー・サブハニ氏がイラストを描きました。「旅に出たハト」はこんなおはなしです。好奇心旺盛なバゼンダというハトは、仲良しのナワゼンダと暮ら

していました。ところが、ある日バゼンダは「僕はあの山の向こうへ旅に出る。新しい場所です。新しい友達を見つかるんだ」と旅に出ました。美しい景色にわくわく。ところが、夜になると嵐が！嵐が去ると、今度はタカとワシがバゼンダを狙います。それから、狐師の罠にかかったり、子どものいたずらでけがをしたり、「やっぱ、ふるさとに帰ろう」。こうして二羽は再会を果たし、仲良く暮らしました。

アフガニスタン事務所は、2003年からこれまでに絵本61タイトル、紙芝居14タイトルを出版し、小学校や図書館に配布しました。

■所長 三宅隆史  
アフガニスタン担当 萩原宏子

# 東北だより

第二報  
2011年秋～冬

いわてを走る  
移動図書館  
プロジェクト



いわてを走る移動図書館プロジェクト、秋までは屋外に車を駐めて読書スペースにしていますが、寒さの厳しい冬になり、集会所をお借りして回っています。大槌町の25仮設住宅では文庫活動「いわての置き本」をはじめました。



①歌や踊りで盛り上げる(左からセイラー、ミンチェン、トゥーン)  
②いつもギターを片手にミンチェン  
③ニアマトラの読み聞かせ  
④大槌町の被害状況を田中スタッフの案内で視察

## 岩手県にアジアのスタッフ大集合

「アジアの子どもたちが学校に通えるようになったのは、日本の皆さんが支えてくれたから」このほど、被災地の方々に直接お会いして励ましたい、お礼が言いたい、海外事務所スタッフが来日。岩手県で行われている移動図書館活動に参加しました。10月1日にはタイのアルニーとキップ、カンボジアのトゥーン、ラオスのミンチェン、ミャンマー(レルマ)

難民キャンプのセイラーが大槌町で、10月8日はアマガニスターのワビドとニアマトラが大船渡市で「おはなし会」を開きました。出発前の9月30日に、SVA東京事務所が岩手の状況を見て、「写真を見ただけでも涙が出る。岩手の人たちが話をしてもらって泣いてしまうかもしれないけど大丈夫かしら」「内戦終結後、町全体が廃墟と化した。今は少

しずつ良くなっていく。日本はきっと復興する」と自分たちの国や体験を重ねていました。移動図書館では、民族衣装の試着、カンボジアやラオスのコーヒーの試飲のコーナーを用意しました。「お父さんに見せたいけど留守なんだよ。残念」といつかタイやカレン族の民族衣装をそでを通すお母さん方。また、練乳入りのアジアのコーヒーがあると噂を聞いて、たく

さんの人が立ち寄ってくれました。日々、子どもたちやお年寄りを大切にしているスタッフたち。言葉は通じなくても、膝をつき、おはあさんたちと視線を合わせながら話を聞くスタッフ。誰かが来ると、ささっとコーヒーを持っていくスタッフの姿がありました。おはなし会は、全員巻き込んで大盛り上がり。ちよっと恥ずかしそうにしている子どもたちの前で、お年寄りが自慢の踊りをスタッフと一緒に踊る姿も見られました。帰る時に「遠くから来てくれてありがとう」と手を握りながら、スタッフが仮設住宅の人たちから話しかけられていました。

言葉をごえ、文化をごえるのは、思いやりの気持ち。それを育むことができる、表現できるのが図書館という場所だと改めて感じました。(広報課長兼岩手事務所図書館事業スーパーバイザー 鎌倉幸子)



気仙沼から

気仙沼事務所では、地域の行事を盛り上げコミュニティが元気になる活動を行っています。ワカメの養殖作業の準備も始まりました。



気仙沼市仙翁寺を訪問

### 「明日は我が身」と浜松市曹洞宗青年会が訪問

10月、静岡県浜松市の浜松市曹洞宗青年会のメンバーが「震災直後、避難所の役割を担った寺院の経験の聞き、東海沖地震が起きた際に気仙沼であったことを活かしていけるように」と気仙沼市内の2カ所の寺院を訪問。浜松市は気仙沼市と同じく沿岸部に位置し、東海沖地震による津波の恐れがあるといわれています。今回、訪れた仙翁寺、興福寺の話を聞き、浜松市の方は「温度が上がった。また次も来たい。」と語っておられました。



「あんでねっと@大谷」のお母さんたち(気仙沼市・大谷公民館)

### 海の復興を祈って「復興のアクリルたわし 大谷のマンボウ」

気仙沼市本吉町の大谷地区の仮設住宅の方々が集まり、アクリルたわしを作っています。「仮設住宅は、地域から来た人もいれば隣町から来られた人もいます。みんなで編み物をする活動があれば、住人が寄り集うことができます」と仮設住宅にお住まいのKさんを中心に10人ほどの主婦の方々が協力し、「あんでねっと@大谷」を立ち上げました。アクリルたわしの売上は、活動資金や集会場の運営費に充てられます。



「あんでねっと@大谷」からのお願い  
●材料になるアクリル100%の毛糸を集めています。  
●販売や活動へ協力して下さる個人・団体を募集しています。  
問い合わせ shiroari@gamma.ocn.ne.jp (有馬嗣朗)



気仙沼事務所 里見 啓  
大分県出身。立命館大学産業社会学部4回生(休学中)。2011年8月入職。

いを持っている人もいますが、こうしたひとりひとりの想いが復興の希望だと感じています。SVAとの関わりは、2006年にレルマ(ミャンマー)難民キャンプに行ったことにはじまります。難民キャンプでの経験を機に大学へ入学し、2010年春には海外インターンシップでカンボジアに一月渡航しました。その縁もあり、今回、気仙沼で活動をしています。

逆境だからこそ、想いを持つ人と人とのつながることで生まれる動きがあり、その歩みが復興につながると思っています。初めての活動なので日々勉強しながら頑張っています。どうぞこれからもよろしくお願いたします。



岩手事務所 吉田 晃子  
岩手県北上出身。結婚して陸前高田市となり16年。東日本大震災で自宅は半壊。陸前高田市の仮設住宅に移っています。

のは三日後でした。今は陸前高田市モレリア仮設住宅に住み、遠野の岩手事務所へ通っています。避難所生活は個人のプライバシーがない代わりに皆で助け合いながらの生活でした。仮設住宅に入居後は他の方との関わり合いがなくなりました。移動図書館は、本を通して人と人とを結びつけてくれると思います。ボランティアと仮設住宅の住人、住人同士が本によって出会い、話す事によって少しでも孤独感が軽減出来ればと思っています。初めての活動なので日々勉強しながら頑張っています。どうぞこれからもよろしくお願いたします。



岩手事務所 千葉りか  
岩手県遠野市在住。3年半前までホームページの作成をしながら、直売所で店員兼お年寄りのお話し相手をしていました。

震 災当日は、主人と当時幼稚園年長の息子と釜石市



# SVA 東京事務所にお気軽にどうぞ

「SVA の事務所には行ったことがないんだよなあ〜」というみなさま、お近くに来られた際は是非お立ち寄りください。インターン、ボランティアの方が和やかな雰囲気の中で、作業をしています。国内事業課のスタッフ 11 人、心よりお待ちしております。(国内事業課長 神崎愛子)

## 絵本を届ける運動

日本で出版されている絵本に現地語の訳文を貼ってアジアの国々に届けます。  
「絵本にシールを貼ってボランティア」

## クラフト・エイド

フェアトレードの手工芸品を通販カタログ「ネットショップ」でお買い求めください。贈り物として、イベントやバザーで「お買い物でボランティア」

## リサイクル・ブック・エイド

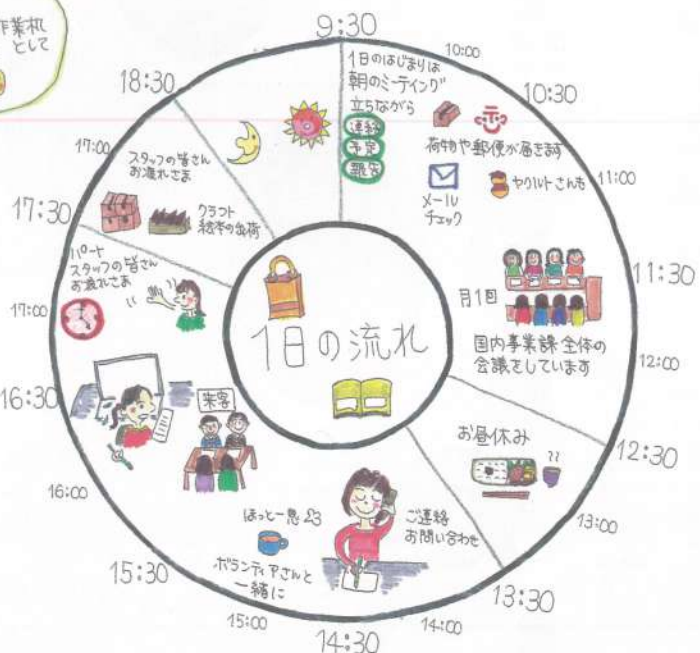
不要になった本やCD、DVD、ゲームソフトをご寄贈ください。換金して教育支援に役立ちます。  
「エコしてボランティア」

## アジアの図書館サポーター

月々2000円のご支援で子どもたちが図書館などで本を親しむ環境づくりをします。  
「マンスリーでボランティア」

## 会員

公益社団法人は、会員がつくる組織です。私たちの運営を一緒に支えてください。  
「一緒に築いてボランティア」



# シヤンティな人たちが Shanti

## 56 瀬戸正夫

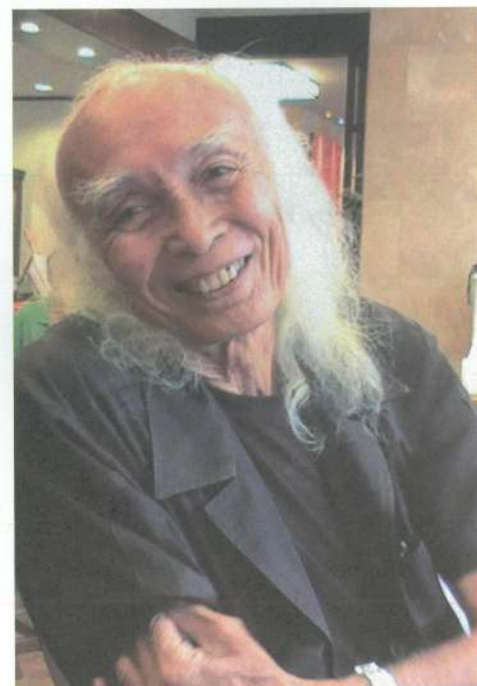
Seto Masao  
せと・まさお

## 写真の力で励まし続ける

今年で80歳を迎えられた写真家、瀬戸正夫さん。今も現役で重たいカメラを何台も肩にかけ現場を走り続けている。瀬戸さんが撮られる写真一枚一枚には「心」が込められており、不思議とストーリーが見えてくる。「一枚の写真」で伝えられること、瀬戸さんの信念であり、実践でもある。

瀬戸さんはタイ、ブーケット島の生まれ。タイ名はピワット・シータラークーンさん。日本人の父とタイ人の母親を持つが、敗戦後、日本国籍を破棄され、30歳でタイ国籍を取得するまで無国籍で過ごしたという。写真家である他、朝日新聞アジア総局顧問・カメラマン、水泳教師等の仕事をこなしている。瀬戸さんのこれま

1997年からSVAの活動を現地ボランティアで撮り続けてくださっている瀬戸正夫さん。タイの人びと、SVAの活動をよく知る瀬戸さんの写真は「シヤンティ」でも多く使わせていただいています。



(写真：小林奈津子)

でのタイでの生涯は、著書「父と日本にすてられて」かのう書房・1995年に綴られている。瀬戸さんが生まれた1931年に満州事変が勃発、日本人の生活は脅かされ、3歳でバンコクに出てきた。その後の太平洋戦争開始、日本敗戦によってノンタブリ県のバンバトンキャンプに送られることになった。翌年、5年後の1945年6月15日に約3000人の日本人が日本へ引き上げたが、瀬戸さんを含む残留組が1000人。最終的には107人ほどが残された。15歳の時にキャンプから放り出され、一銭もない状況での生活に直面することとなった。

1997年から2006年までの10年間行われた「アジア子ども文化祭」に毎年、参加して写真を撮り続けて下さった。瀬戸さんの写真の力と励ましがなければ「アジア子ども文化祭」は、到底これほどまで長く続いている。単なる子どもたちの踊りの発表だとのイメージが大きかった当初、貧困、内戦、差別などいままお体と心に深い傷を負っている子どもが大勢いるインドシナ各国の子どもたちが境遇にくじけず自分たちの文化に誇りを持ち、夢と希望を持って生きてほしいとの願いをこめたアジア子ども文化祭の目標を瀬戸さんは何千枚もの写真を通じて社会に伝えて下さった。

「どこにいても人とのつながりを大事にする」カメラのファイ

### 休みの日は、ちょっと一息...

バンコクの街角、タイ北部の山間部、国境地帯、難民キャンプ。それぞれの場所のできる人びとを一枚の写真と文で切り取った「瀬戸正夫の一枚の写真」をSVAのホームページから読むことができます。  
<http://sva.or.jp/thailand/seto>



ミャンマー(ビルマ)難民キャンプで瀬戸さんが撮られた食糧配布の写真

(中原亜紀)



# SVAからのお知らせ

図書館は、国境をこえる

読書の秋は、図書館活動を行っているSVAの報告会の月でもあります。2011年は全事務所からナショナルスタッフが来日し、日本語と現地語が飛び交う報告会となりました。

9月29日に日本郵船株式会社のご協力で郵船ビルをお借りした報告会「図書館は、国境をこえる」では、アジア地域ディレクターの八木沢が30年前の難民キャンプでなぜ図書館活動を始めたのか説明その後、アフガニスタン所長の三宅が国際協力における図書館活動

の意義について発表しました。その後、ナショナルスタッフによる絵本を使ったおはなしや日々子どもたちと遊んでいるゲームを披露。会場からは大歓声が上がりました。

10月4日からは4日連続のセミナーを実施。10月4日は、20年近くおはなし活動を行っているミンチェンによるおはなし会と報告会「ラオスからミンチェン兄さんがやってきた!」、5日には、祖国に戻る人々と日々接しているミャンマー(ビルマ)難民キャンプ事業事務所による報告会「長期化するミャンマー(ビルマ)難民問題と揺

れる人々の心」、6日は、2001年の9・11とそれに続く10月7日に行われたアフガン空爆、そしてその後の国の様子を伝える「空爆から10年―アフガニスタンの人々が今、思うこと」、6日は設立20年目を迎えるカンボジア事務所が内戦から経済発展を遂げている現状を伝える「カンボジア、激動の半世紀と図書館活動にかける思い」を開催。なぜ、その国で図書館が必要なのかを伝える機会となりました。

(広報課長兼若手事務所図書館事業スーパーバイザー 鎌倉幸子)



## 2012年度定時社員総会のお知らせ

2012年度定時社員総会を下記の通り開催いたします。社員会員には3月初旬にご案内と資料をお送りしますので、よろしくお願いたします。総会での議決権は社員会員の方のみですが、賛助会員の皆さまもご出席いただけます。賛助会員には総会案内を同封しています。

日時：2012年3月24日(土) 13:30 開始  
会場：真生会館会議室(新宿区信濃町33番地)  
主な議題：2011年度事業報告・決算報告について  
2012年度事業計画案・予算案について

◎経理・総務課 市川斉、河口尚子

## 税制上の優遇措置が受けられます

当会への寄付・募金につきましては、所得税、住民税、法人税、相続税において、優遇措置(寄付金控除等)が受けられます。

2011年1月4日以降にご寄付をいただいた個人支援者の皆さまには、今までより大きな金額の所得税の還付が受けられることとなります。

なお、確定申告をしないと税の還付は受けられません。勤務先などで実施される年末調整では還付の手続きはできません。詳しくは最寄りの税務署・税理士にお問い合わせください。

確定申告に必要なので保存しておいて下さい

◎当会が発行する領収証

◎内閣府の「税額控除に係る証明書」のコピー(領収証に同封してあります) ◎経理・総務課 市川斉

## 人事のお知らせ

入職	三浦 友幸	気仙沼事務所経理総務担当契約スタッフ(9月1日付)
	笠井 俊一	緊急救援担当契約スタッフ(9月1日付)
退職	長谷川 香	緊急救援担当契約スタッフ(9月16日付)
	田中 明博	岩手事務所図書館活動プログラム契約スタッフ(11月30日付)
	落合あづさ	国内事業課クラフト・エイド担当契約スタッフ(12月31日付)
	松尾久美	SVAタイランド国際部コーディネーター(12月31日付)
異動	山室 仁子	海外事業課パートスタッフから海外事業課カンボジア担当へ(11月1日付)
休職	利根川 佳子	11月20日より産休

## スタッフのひとこと

冬 えば

■4年前の冬、大学4年生だった私は、イランに向かう飛行機の中でした。NGOのアフガン難民支援活動に参加するためです。当時、同世代のアフガン難民の友人と出会い感じたことは、今も私の原点になっています。「いつかNGOで働きたい」と決意したのもその時です。(海外事業課アフガンスタッフ担当 萩原宏子)

■「冬眠したい!」このところ冬になると、代謝を下げた一日ぬくぬくウトウト過「したいと思うようになりました。冷凍人間が現実的な今、冬眠人間もそう突飛な話ではないかもしれません。春に出てくる姿を想像するとかなりこわい気もしますが……(クラフト・エイド担当 渡辺ちひろ)

■東京出身の私。子どもの頃、雪が降ると大よりはしゃいでいました。特にお気に入りだったのは、ベランダから雪の降る空を見上げること。空に吸い込まれ、上へ上へと昇っていくような不思議な感覚が大好きでした。この冬は童心に戻って雪空を見上げてみたいです。(絵本を届ける運動担当 三宅千英子)

編集後記 ■昨年、日本は「一層厳しい状況におかれた」と感じた1年でした。こんなときこそ、国内外で助けあわってほしいですね。今年も「困難な状況にある人に向きあおう」という姿勢を大切に、進んでいきたいと思えます。(清野陽子)

## 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015  
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階  
TEL 03-5360-1233  
FAX 03-5360-1220  
WEB <http://www.sva.or.jp>  
E-Mail [info@sva.or.jp](mailto:info@sva.or.jp)  
郵便振替 00150-9-61724

●当会へのご寄付は、所得税、住民税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。



「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷されています。

ジャンティ

2012年1月1日発行(1,4,7,10月1日発行) 通巻266号  
1985年6月28日第三種郵便物認可

発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
発行人 若林英英 / 編集人 間尚士  
装丁・レイアウト 矢萩多聞 / 印刷 株式会社大川印刷

定価 550円(税込)